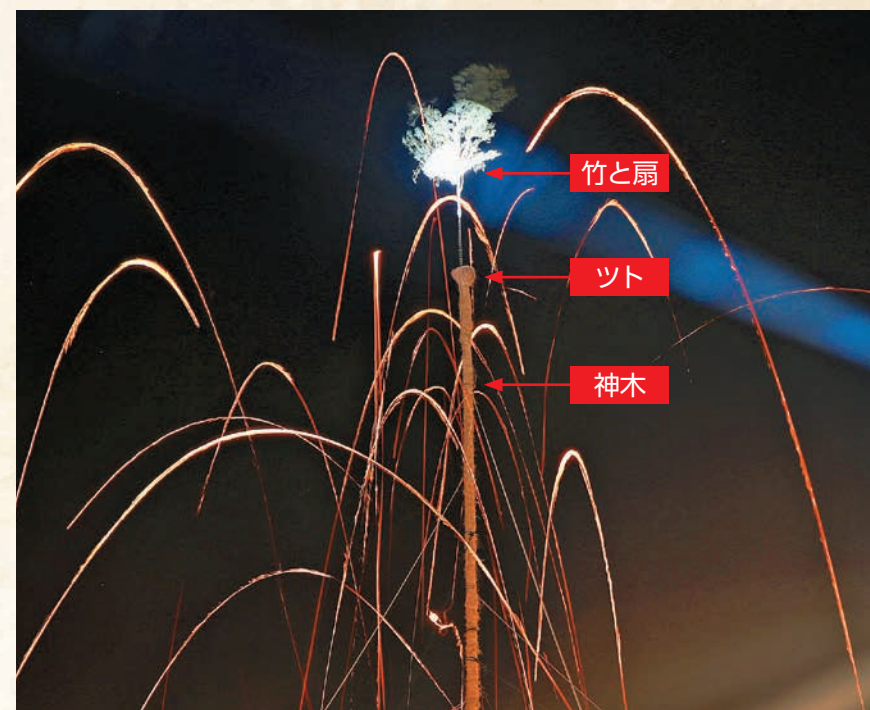


都井岬

火まつり



歴史・由来

昔、人々を苦しめていた大蛇を、^{えいとくぼう}衛徳坊というお坊さんが、火攻めで退治したという伝説にちなんだ、五穀豊穡を願う祭りです。現在は、都井地区柱松保存会によって受け継がれています。

いつから行われているの？

今年で、59回目を迎える都井岬火まつりですが、実ははるか以前から「宮原地区十五夜柱松」として行われていました。59回目というのは、都井岬で行われるようになって、59回目ということになります。都井岬に会場を移すまでは、都井小学校付近の田んぼで行われていました。運動場の東側に2つの川が合流する地点があるのですが、そこが大蛇のすみかだったそうです。退治したのもその場所だったことから、できるだけ近いところで行うのが良いと、すぐそばの田んぼで行われていたそうです。

たいまつを投げるとき、なんて言っているの？

たいまつを投げる人のことを、『^{せこ}勢子』というのですが、たいまつを投げるときには、「トントコッテ エイトクボウヤ」という掛け声を出しています。これは、「とうとう討ち取った 衛徳坊や」という意味です。観客の皆さんも一緒に掛け声を出して、火まつりを盛り上げてくださいね！

神木にはどんな木が使われているの？

火まつりに欠くことのできない全長約30メートルの

神木。かつては松を切り出す場所や切り始める人が決められており、1週間前から禊ぎを行ってから作業にかかっていました。現在では、1本物の真っすぐな松が少ないことから、15メートルほどの杉を2本継ぎ合わせて利用しています。

○神木の先には竹、扇が飾られています。

○ツト：大蛇の口を表しています。口径は約40センチほどで、かやで編まれています。使用するかやは1年前から干して乾燥させておきます。中には花火が仕掛けられており、たいまつが入ると大蛇の血潮のように花火がはじけます。

※神木を立てる場所には、基礎が設けられ、一方向にしか倒れないよう、安全面の対策がとられています。

たいまつがツトに入るまでの最短＆最長記録は？

これまでの最短記録は開始直後の1投目。最長では1時間以上におよんだこともあるそうです。

ツトに入るといいことがあるの？

見事、たいまつをツトに投げ入れた勢子さんには、『福』が訪れるといわれています。

大蛇退治伝説



昔、都井が荒井谷と呼ばれていた頃、あたりは大樹が茂り、沼地が広がり、怪物変化が村人たちを脅かしていました。なかでもしばば人や家畜に危害を加えていたのが大蛇でした。

村人たちは、寄り集まってこの大蛇を退治しようと話し合いますが、当時は、鉄砲も大砲もなく、手の打ちようがありません。むなしく時が経つのを待つばかりでした。

時に、名を^{えいとくぼう}衛徳坊という

大変勇敢なお坊さんがいました。このお坊さんは慈悲深く、徳高い名僧で、村人たちの悲しみや苦しむ姿を見るに忍びず、自ら、先頭に立って、大蛇退治を決行されることになったのです。

蛇は火を恐れることから、火攻めの戦法をとることにになり、村人全員で手にたいまつを持って大蛇を追い立てます。ついに逃げ場を失った大蛇は、岩穴に逃げ込んだのです。

衛徳坊がすかさず、大蛇

の口めがけてたいまつを投げ入れ、十字を切り呪文を唱えました。すると、大蛇は口から火炎のような血潮を吹きだし息絶え、とうとう大蛇退治に成功したのです。

これで村人たちの心配はなくなり、明るい生活ができるようになったということです。

この大蛇退治の様子を今に伝えるのが「都井岬火まつり」で、衛徳坊の偉業を称えと共に、豊作と明月を祝うことにしたといわれています。

